

みやぎ環境税

みやぎの豊かな環境を守り 次の世代へ引き継いでいこう

令和3年度事業の概要とその成果を紹介します

宮城の豊かな環境を適切に保全し、次の世代へ引き継いでいくために、平成23年4月から「みやぎ環境税」を導入し、喫緊の環境課題の解決に向けてさまざまな事業に取り組んでいます。昨年度は「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050 NOW OR NEVER! 今しかない!」のスローガンの下、新みやぎグリーン戦略プランに基づく次の五つの視点から、51事業を実施しました。そのほか、市町村支援事業として「みやぎ環境交付金事業」を実施しました。



令和3年度事業の概要

視点1 脱炭素社会の推進 13事業 / 6億8812万円

家庭や事業所における二酸化炭素の削減に向けた取り組みを推進しました。

主な事業

- スマートエネルギー住宅普及促進事業 / 2億8436万円
住宅の太陽光発電システムなどの設備導入や省エネ改修に対する補助
- 燃料電池自動車導入推進事業 / 4346万円
燃料電池自動車(FCV)の導入支援や、燃料電池バス(FCバス)の路線運行支援など



導入されたFCVタクシー

視点2 森林の保全および機能強化 12事業 / 6億4360万円

二酸化炭素の吸収など多面的機能を持つ森林や里山の管理・保全と森林資源活用に向けた取り組みを推進しました。

主な事業

- 県産材利用サステナブル住宅普及促進事業 / 3億1705万円
県産材を使用した木造住宅の新築・リフォームに対する補助
- 温暖化防止間伐推進事業 / 5860万円
間伐や森林作業道の整備に対する補助



県産材を使用した住宅の内装

視点3 気候変動の影響への適応 7事業 / 2759万円

気温や海水温の上昇など、気候変動の影響によって生じる被害を回避・軽減する取り組み(気候変動適応策)を推進しました。

主な事業

- 海水温上昇に対応した持続的養殖探索事業 / 373万円
高水温環境に適応可能な海藻などの増養殖試験や、ブルーカーボン[®]に関する普及啓発
※海藻などによる二酸化炭素吸収効果
- 温暖化に対応した高温に強いイネづくり開発普及推進事業 / 418万円
高温に強いイネの品種開発、選定および県南地区における現地適応性の評価



試験養殖されたアカモク

視点4 生物多様性、自然・海洋環境の保全 14事業 / 1億362万円

生物多様性を育む豊かな自然・海洋環境の保全・再生のための取り組みを推進しました。

主な事業

- 野生鳥獣適正保護管理事業 / 1252万円
生息域拡大が著しいニホンジカ・イノシシの捕獲による適正管理や、捕獲の担い手確保に向けたハンター養成講座の実施
- 湿地環境保全・利活用事業 / 2531万円
伊豆沼・内沼の自然再生や、水生植物園の整備などを通じたワイズユース[®]の推進
※湿地から得られる恵みを持続可能な形で利用すること



水生植物園における観察会

視点5 地域循環共生圏形成のための人材の充実 5事業 / 1082万円

地域循環共生圏[®]の形成に向けた人材の育成や、環境教育の一層の充実を図る取り組みを推進しました。 ※地域資源を最大限活用しながら、自立・分散型社会の創造を目指す考え方

主な事業

- 児童・生徒のための環境教育推進事業 / 133万円
県内の児童・生徒を対象に環境教育リーダーなどによる出前講座の実施
- ルルブル・エコチャレンジ事業 / 185万円
子どもの基本的な生活習慣の定着促進や、エコ活動に関する環境教育の実施



こども環境教育出前講座

令和3年度事業の成果

温暖化対策の成果

1万9182世帯分の二酸化炭素を削減しました

家庭用の太陽光発電システムやエネファーム(燃料電池)の導入、既存住宅の断熱改修、事業者用の再生可能エネルギー設備の導入などを支援したことによる省エネ効果と、森林整備による吸収効果により、約7万4867トンの二酸化炭素を削減しました。これは平均的な家庭換算で岩沼市の合計世帯数(約1万9千世帯)の年間排出量とおおむね同じです。

森林を整備し 森の働きを高めました

二酸化炭素の吸収機能向上や、降雨による山崩れなどを防止するため、192



間伐された後の森林

温暖化対策以外の成果

地域の生態系への影響や農林業被害を防ぐため、増えすぎたニホンジカやイノシシを3528頭捕獲しました。また、県内53の小学校で環境に関する出前講座を実施しました。

みんなで広げる「木育」活動

県は、環境に関する普及啓発や環境教育に積極的に取り組んでいます。ここでは、昨年度に実施した「視点2 森林の保全および機能強化」の「みんなで広げる「木育」活動推進事業」について紹介します。

「木育(もくいく)」とは?

木育とは、木を使った遊びや作業などを通じて、幼少期から木と五感で触れ合うことで、自然環境に対する「思いやり」を育むとともに、林業などの地域産業や森林保全への関心を高めることを目的とした取り組みです。

県は、企業・団体による県産材を用いた木育イベントの開催や、木育につながる民間施設の木質化※に対し支援を行っています。



ズレンガを組み立てる子どもたち

楽しい木育イベントを開催

※施設内の内装などに木材を用いること
一般社団法人南三陸YES工房は、南三陸杉(FSC認証材※)で作られた木育キット「ズレンガ」を使用し、親子

で参加できるワークショップを開催しました。

「ズレンガ」とは、2種類のパーツからなる木製ブロック玩具で、立方体のブロックと連結棒を組み合わせてることにより、さまざまな形を組み立てることができます。参加した子どもたちは、想像力を働かせながら、動物やロボットなど思い思いの作品を作りました。

身近な施設を木質化

※国際的に適切な管理をしていると認められた森林から生産される木材
イオンモール新利府南館にある「モクイクひろば」は、3〜6歳の子どもを対象とした遊び場です。登米市産や南三陸町産のFSC認証材がふんだんに使用され、開放的な木質空間となっています。子どもたちは、木のぬくもりを感じながら、木製のすべり台などを使って伸び伸びと遊ぶことができます。



木材に囲まれた「モクイクひろば」

このように、県内各地で、木育イベントの開催や施設の木質化が進められています。これを機に、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

令和3年度の環境創造基金の収支残高

| 項目 | 金額 |
|-------------------|-----------|
| 令和2年度末の残高① | 8億9192万円 |
| 令和3年度収入(税込・運用など)② | 17億7586万円 |
| 令和3年度支出③ | 17億8292万円 |
| 令和3年度末の残高①+(②-③) | 8億8486万円 |

※1万円未満四捨五入

基金の残高

みやぎ環境税は、課税目的に沿った事業にのみ使用し、その使い道を明らかにするため、「環境創造基金」に積み立てて管理しています(左表参照)。令和3年度の基金の残高は、令和4年度以降の事業に引き続き活用していきます。

みやぎ環境税の仕組みに関すること

税務課

☎022(211)2323

みやぎ環境税の使い道に関すること

環境政策課

☎022(211)2661